

項目 番号	掲載 ページ	章番号	検討事項	指摘した 部会員	対応状況
1		表紙	●表紙上部に医療従事者として医師が描かれているが、患者の窓口としては「看護師」や「ソーシャルワーカー」の方が親しみやすいと感じる。がんの治療においては医師が重要な役割を果たすが、さまざまな相談に関しては医師が直接対応することは少ない。相談に対応する職種を主役として前面に出した方が、患者さんや市民にとって理解しやすいのではないかと。●市民が中心となるべきなので、表紙案の市民の位置を下ではなく上に配置するのが良いと考える。医師は下支えの役割を示す方が適切である。●市民が主役であることが明確に伝わるのが重要だ。	土屋部会員 豊田部会員	ご意見を踏まえ、下記点を中心にイラスト・レイアウトを変更しました。 ○市民を上部に、医療従事者を下部に移動 ○ソーシャルワーカーを思わせる人物を医師の隣に配置 ○医師のイラストをユニセックスな印象なものに変更 ○医療従事者の表情を全員笑顔に変更
2	18→70	2章→4章	●《国》部位別臨床期別5年相対生存率について、新たに追加することは良いことだが、県別の生存率グラフとのタイプが異なっているため、統一した方が良い。また、県別と国別で病気の表記順が異なっているため、統一して見やすくすることが望ましい。	豊田部会員	ご意見ありがとうございました。事務局で検討しまして、ご指摘いただいたグラフをコラム資料とし、別頁（精密検査についての記載部分）に掲載しました。 (理由) ○当該グラフのみステージ別のグラフであり、15、16ページの県のグラフと種類を揃えることが難しかったため ○当該グラフは、早期発見の大切さを説く場所でコラム資料として使用した方が効果的であると考えたため
3	32→30	3章1（1）	●目指すべき姿と役割の医療従事者の欄について 「がんと診断された患者やその家族に診断したときから寄り添う」とあるが、「診断したときから」という表現に違和感を覚える。診断前や疑わしい段階から寄り添うものであり、この文言は不要ではないか。「診断したときから」とはつまり、「その人の一番最初から」という意味であろうが、記載することで逆に意味が限定的になっているように思われる。	水野部会員	ご指摘ありがとうございました。訂正いたしました。
11	32→30	3章1（1）	●32ページ（目指すべき姿と役割）の（横須賀市）の上から3番目に、「年代に応じたのがん教育」とあるが、「の」が不要なので、削除をお願いする。	谷村部会員	ご指摘ありがとうございました。訂正いたしました。
4	99	4章4（4）	●緩和ケア外来のある病院紹介欄の横須賀共済病院にも、衣笠病院同様、「かかりつけ医にご相談ください」という一文を入れてもらいたい。 ●衣笠病院の緩和ケア外来紹介部分について 掲載されているリンク先がトップページであると、その先への進み方が分かりにくいと感じた。緩和ケア外来のページがあるので、そちらへのリンクへ訂正願いたい。	豊田部会員 谷村部会員	ご意見ありがとうございました。訂正いたしました。
5	資料11→108	4章4（6）	●中学2年生のピロリ菌対策事業の啓発は、冊子もあるので、冊子にも○が入ると思う。	水野部会員	ご指摘ありがとうございました。訂正いたしました。
6	→80	4章3（4）	●大規模な病院ではメディカルソーシャルワーカーが活躍しているが、一般の方々には「MSW」という言葉が通じにくい場合が多いと考えられる。また、特に患者のご家族の中には、メディカルソーシャルワーカーの存在自体を知らない方が多いと思われる。 コラムにおいて、そのような職種が特に大きな病院にはいるということを紹介することが必要だと考える。 メディカルソーシャルワーカーは、就労相談等にも対応し、幅広い範囲をカバーし、それぞれの専門につないでくれる中間的な存在。そのような職種があることを一般の方にも知っていただきたい。 英語のままであるのもわかりにくい理由なのかと思う。「医療社会福祉士」など、よりわかりやすい日本語に表現することで、患者さんにも理解しやすくなるのではないかとと思う。	土屋部会員	ご意見いただき、ありがとうございました。 80頁にメディカルソーシャルワーカーについてのコラムを作成し、掲載致しました。
7	資料11→106	4章4（5）	●神奈川県がん患者団体連合会の紹介が入っているが、この表記でよいのか、県がん連に確認して、連絡する。	鈴木部会員	ご確認ありがとうございました。ご連絡いただいた内容に変更しました。
8	52～53→50～52	4章1（2）	●HPVワクチン接種率について、データは多く掲載されているが、「安全性について特段の懸念が認められないこと」という一文についてはそれをデータとして見ることができない。 親が接種を受けさせない理由の一つは安全性に対する懸念であるため、その点について具体的なデータが示されれば、「なるほど、効果があり、副作用もこのようなものだ」と理解でき、接種率（40.6％）がさらに増加するのではないかとと思う。 ●（HPVワクチン接種の安全性について）副作用がそれほどないというデータを掲載する形がよいのでは。 ●HPVワクチンの安全性についてのデータは外国のものが中心となると思われる。 ●直接的なデータを載せると、一般の方にはわかりにくい可能性がある。そのため、一番良い方法は、厚生労働省や信頼できる機関の出典を示し、その上で安全性について説明したホームページにリンクを貼る形が最適だと思われる。	谷村部会員 水野部会員 土屋部会員	ご意見いただき、ありがとうございました。 本計画を読んだ接種対象者ご本人や保護者の方がHPVワクチン接種の安全性を理解し、接種を受けようと思えるよう、下記のように訂正しました。 ○52頁下段に掲載していたグラフ「定期接種世代での湿润子宮頸がん予防効果」を解説をつけたコラムにし、コラムタイトルをつけることで接種により発症リスクが下がる記載がわかりやすくなるよう修正 ○53頁のワクチンの積極的勧奨の中止とその後について、積極勧奨を中止した経緯、再開にあたっての根拠、再開後のキャッチアップ、現状と今後の取り組みの4項目に分けて記載し、わかりやすい内容になるよう修正
9	概要版	全体	●横須賀市のゆるキャラ「スカリン」は概要版には入れないのか。掲載することで、和やかな印象を与えらると思う。マスコットもぜひ活用していただきたいと考えている。	土屋部会員	ご意見いただき、ありがとうございました。 概要版の6～11頁の情報提供の見出しに持ち物が違うスカリンを掲載したほか、計画冊子にも右側ページ下部分のイラストや、裏表紙にスカリンを配置し、少しでも和やかなの気持ちになれるようにしました。
12	概要版9	患者会情報	●患者会について、「がんのサポートハンドブックに掲載されている」と記載されているが、県のサポートハンドブックには横須賀市の患者会が記載されていない。可能であれば、横須賀市の患者会を掲載した方が良いと思う。	鈴木部会員	ご意見いただき、ありがとうございました。 概要版には市内患者会を掲載し、その他の県内登録団体については県のサポートハンドブックを閲覧する案内に修正しました。
10	概要版	索引	●「終末支援」とあるが、「終末期支援」の間違いではないか。	豊田部会員	ご指摘ありがとうございました。訂正いたしました。

資料2

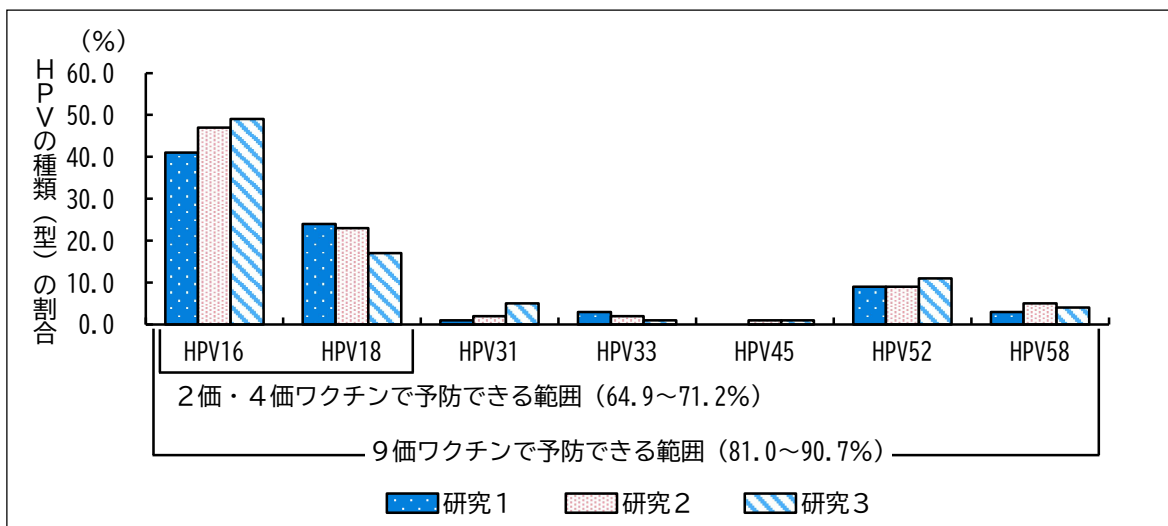
第2期
横須賀市
がん対策推進計画

令和7年(2025年)3月
横須賀市

② ヒトパピローマウイルス（HPV）

ヒトパピローマウイルス(HPV)は、子宮頸がん、肛門がん、咽頭がん、陰茎がん等の原因ウイルスです。主な感染経路は性的接触であり、男性女性問わず、性交経験があれば、大半の人が生涯で一度は感染する一般的なウイルスです。感染しても無症状で、ほとんどは免疫の力で自然治癒しますが、一部は感染が持続し、子宮頸がんをはじめ、多くの疾患の原因となります。近年特に、若い女性の子宮頸がんの罹患が増えており、子宮頸がんの95%以上はHPVの持続的な感染が原因となっていることが分かっています。HPV感染の予防にはワクチンの接種が有効で、HPVワクチンの接種により、子宮頸がんの原因の50%から70%を防ぐことができます。

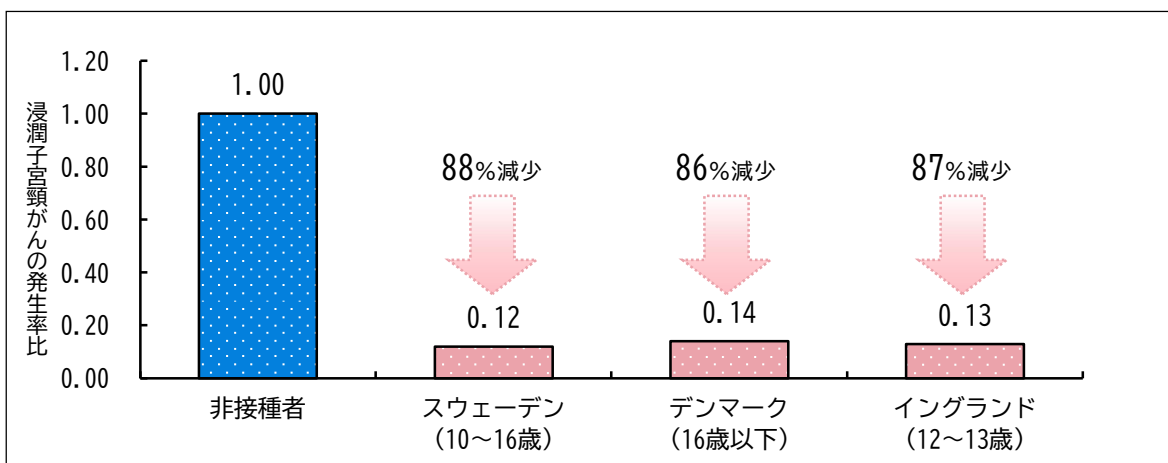
日本人女性の子宮頸がんにおける
HPVの種類(型)の割合と、ワクチンで予防できる範囲



資料：厚生労働省ホームページより

HPVワクチンの予防効果は世界的にも認められています。スウェーデン、デンマーク、英国という異なる地域で独立に行なわれた国家レベルの大規模な調査で、HPVワクチン接種により大幅に浸潤性子宮頸がんのリスクが減少すると示されています。

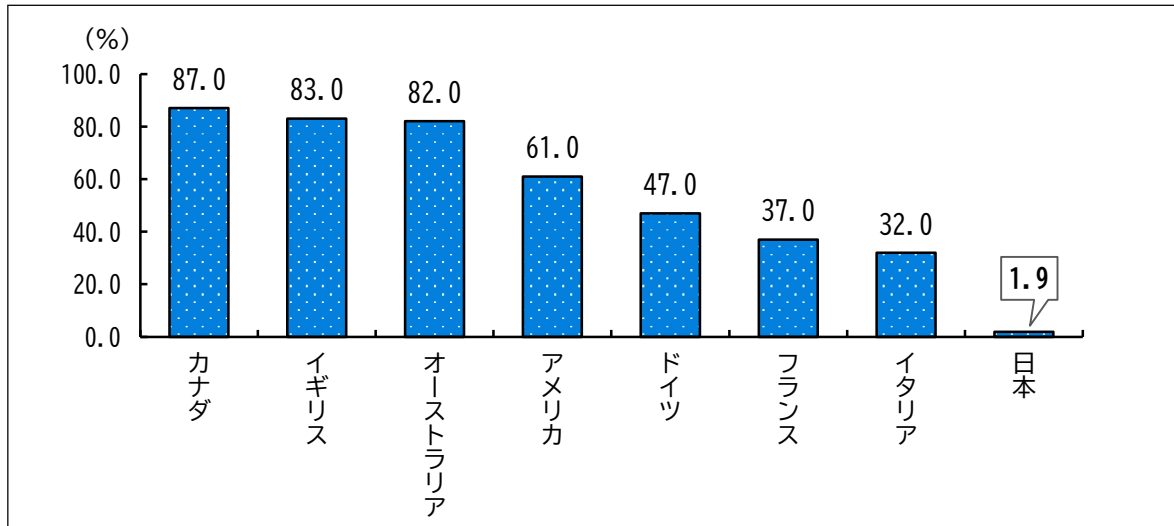
定期接種世代での浸潤子宮頸がん予防効果



資料：日本産婦人科学会ホームページより

現在の日本のHPVワクチン接種率は海外と比べ大変低くなっています。これは、HPVワクチン接種後副反応を疑われる症状が報告され、平成25年(2013年)から令和3年(2021年)の間、HPVワクチンの定期接種のお知らせ等、積極的な勧奨が差し控えられていたためです。以前は7割を超えていた接種率が1.9%まで落ち込みました。

HPVワクチンを接種した女の子の割合(2021年)



資料：WHO/UNICEF Joint Reporting Form on Immunization より

安全性について特段の懸念が認められないことや接種による有効性が副反応のリスクを明らかに上回ると認められたため、令和4年(2022年)4月からHPVワクチンの積極的な接種勧奨が再開しました。

また、積極的な勧奨が控えられていた8年間に接種機会を逃した方に対して、公平な接種機会を確保する観点から、令和4年度(2022年度)から3年間、従来の定期接種の対象年齢を超えて接種を行う「キャッチアップ接種」が行われました。

市では、HPVワクチン接種率は平成28年度(2016年度)には0.6%まで落ち込みましたが、積極的な勧奨が再開した令和4年度(2022年度)は40.6%まで回復しました。引き続き、ヒトパピローマウイルスと子宮頸がんをはじめとするがんの関係を周知し、HPVワクチンの接種を推進するとともに、20歳以上の女性に対し、子宮頸がん検診を定期的に受診することの啓発を行っていきます。

【参考】

厚労省ホームページ「ヒトパピローマウイルス感染症～子宮頸がん(子宮けいがん)とHPVワクチン～」

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/index.html>



HPVワクチン予防接種券についてお問合せ

横須賀市民生局健康部保健所企画課 担当：予防接種担当 電話：046-822-4339

<https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/3160/20130617hvp/20230401hvp9.html>

